

業務用キャベツの長期安定出荷技術の開発

オススメする方

業務用キャベツ栽培農家、土地利用型経営体、JA等集出荷組織

成果の内容・特徴

- ① 気象の年次変動による収穫時期のずれを抑えるため、早めに定植して生育量を確保し、在ほ性を利用して望む時期に収穫できる手法を開発しました。
- ② 在ほ性に優れる「夢ごろも」を、8/25頃と9/5頃の2回に分けて定植すると、12月下旬～4月上旬に常時収穫可能な状態を実現できます。
- ③ この手法をとると、収穫作業が集中しないので、労働力の分散が可能です。
- ④ 底面給水育苗(育苗中無追肥)の場合、育苗期間が通常よりも長くなった苗を定植しても、収量に悪影響はありません。



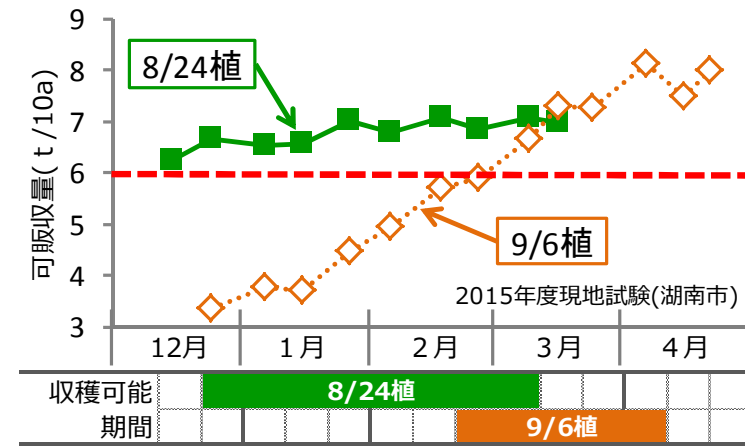
業務用キャベツは契約取引が主なので、長期に安定して出荷することが重要です。

具体的データ

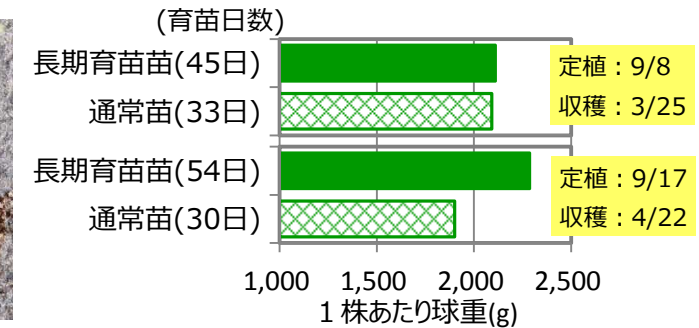
収穫期を迎えたキャベツを収穫せずほ場に放置しておくと、通常は、裂球や病害により、可販率が低下していきます。



ところが、品種「夢ごろも」は、収穫できる状態のまま長もちすることがわかりました。



品種「夢ごろも」を8/24と9/6の2回に分けて定植すると、12月下旬～4月上旬に常時収穫が可能となり、望む時期(契約上の出荷時期)に出荷ができます。



底面給水育苗の場合、育苗期間が延びても苗が悪くならないので、降雨等による定植作業時期のずれに対応しやすいメリットがあります。

<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

栽培研究部 野菜係 電話: 0748-46-3083 E-MAIL: gc57300@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センター主要研究成果 http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nogyo/k_seika/index.html

